

第一回労働調査報告

東京市電車従業員の罷業問題

四月下旬、東京市内電車に突發したる同盟罷業は五日間に亘つて行はれ、多數従業員の收監、誠首を見て、同月三十日終熄せり。然れども、此罷業に對し市電氣局の採りし手段は、甚だしく強壓的にして、従業員をして、無條件復職を餘儀なからしめたり。従つて従業員側は、罷業に失敗したりと雖も要求を放棄したるに非ざれば之を以て問題は解決を告げたりと言ふべからず。市當局にして、若し姑息の手段のみに出で、根本方策を構ずることを怠らんか、市電従業員問題は今後益々紛糾の度を加へ來るべきは、言ふを待たず。是れ將來、東京市民の日常生活に、直接重大なる影響を及ぼすべきものとして、一般社會の等しく同問題に着目し、又過般行はれたる同盟罷業の真相を知らんと欲する所以なり。

抑も過般東京市電車従業員が突如として罷業を起すに至りし遠因は、労働條件の改善を目的として従業員の組織したる日本交通労働組合の成立にあり。従つて同問題發展の真相を告ぐるは、畢竟日本交通労働組合運動の経過を語るに外ならず。故に、今此等の實相を明瞭ならしむる爲め(一)日本交通